

鳥取県がん診療連携協議会 (緩和ケア 部会)

PDCAサイクル評価シート 令和 4 年度

【鳥取県の全体目標】 がんによる死亡者の減少 75歳未満がん年齢調整死亡率(人口10万対)を70.0未満とする
(令和5年度まで) (男女別の目標値 男性：90.0未満 女性：50.0未満)
【中期目標】 がんと診断された時から患者と家族が抱える様々な苦痛に対する適切な緩和ケアを提供できる体制を整備する
(令和3年度～令和5年度)

前年度の目標	①各施設で、緩和ケアを専門としない医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育を行う。 ②各施設で、緩和ケアを専門としない医療従事者と専門家の連携を密にする体制を明確にし、周知する。
今年度全体目標	①各施設で緩和ケアを専門としない医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育(新人教育、経年者に対する知識のブラッシュアップ)を行う。 ②各施設で緩和ケアに対する課題を明確化し、課題解決を図る。 ③緩和ケアを専門としない医療従事者と緩和ケア専門家との連携を強化する。

鳥取大学医学部附属病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>1 医師向けの緩和ケア研修"PEACE"開催 2 看護師向けの研修"ELNEC-J"開催 3 看護師に対するコース研修開催 4 緩和ケアに関連する委員会での研修 5 勉強会開催・病棟における勉強会開催</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>1 職員に向けて緩和ケアに関するマニュアルの周知 2 緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底 3 緩和ケア専門家との連携方法の再考 4 リンクナースの機能強化と連携強化 5 地域医療機関との連携強化 ・米子緩和ケア研究会 2か月に1回(R4年度は10月開始)参加 ・中海緩和ケア研究会 1年に1回開催。</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <p>1緩和ケアチーム・緩和ケア科の体制整備 2専門的緩和ケアを担う人材育成</p>	<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>1 PEACE研修は令和5年2月開催予定 3 看護師に対するコース研修開催 緩和ケアコース研修(全5回)：参加者27名(院内)／院外10名程度</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>1、緩和ケアポケットマニュアル(令和3年3月改定)を作成 緩和ケアマニュアル (2021年11月改定) 2、緩和ケアチームおよび緩和ケア科依頼方法の定型化あり。PCスクリーンセーバー、サイネージによる周知実施。 3、緩和ケアチーム医師・看護師が各診療科および病棟カンファレンスに参加し、相談しやすい体制を確保している。 4、がん看護リンクナース会あり。病棟でスクリーニングした結果をリンクを通じて緩和ケアチーム看護師に報告している。 5、米子緩和ケア研究会10月開催した。中海緩和ケア研究会を1月に開催予定であったが、今回は世話会のみ実施となった。 その他、西部圏域および鳥根県東部の往診医に提供できる医療について確認中。一覧作成・配布予定。</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <p>1、R4.4月から緩和ケア医が変更となり、新体制を構築した。周知のために上述②の通り広報活動を実施している。 2、週1回のカンファレンスにアドバイザーとして松江市立病院の安部先生に入っていただいている。2週間に1回薬剤勉強会を開催(院内医療従事者対象)</p>	<p>①- 3、例年開催しているコース研修をコロナ感染状況に応じて一部Web配信を行いながら予定通り実施することができた。</p> <p>②- 2、緩和ケアチーム・緩和ケア科の依頼方法が十分周知できていないこと、今年度から新たに体制を組みなおしたことを踏まえて院内広報に力を注いでいる。3、緩和ケアチーム看護師による病棟カンファレンス参加は定着している。医師の診療科カンファレンス参加が今後の課題である。4、今年度はリンクナースに苦痛スクリーニングの結果を報告してもらっているが、リンクナースが結果を把握しきれない現状があるため、後期はその改善に取り組む予定である。</p> <p>③- 1、緩和ケアチーム新規紹介11件/月、緩和ケア科受診患者5.8件/月と昨年度に比べて増加が見られる。後期は、患者・医療者の満足度調査を行い、よりよい診療につなげていく。 ③- 2、コロナ感染状況により、集合研修や回診・カンファレンス参加者の縮小など行いながらも安部先生のご指導の下、知識のブラッシュアップを図ることができている。</p>	<p>②- 4、リンクナースの機能強化(苦痛スクリーニング結果の報告体制の確立)</p> <p>③緩和ケア診療体制の広報</p>

鳥取県立中央病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①</p> <p>-1)医師等向けへの緩和ケア研修 (PEACE) を開催する (2022/12/10予定)</p> <p>-2)看護師向けの研修会 (ELNEC-J) を地域の医療従事者を対象に開催する (2022/7/23~24予定)</p> <p>-3)緩和ケア委員会主催の研修会を年1回以上企画、実施する</p> <p>-4)リンクナースと連携し、病棟単位での勉強会、ミニレクチャーの開催を推進する</p> <p>②</p> <p>-1) 連携の強化 (下記③)</p> <p>-2) 緩和ケアの専門家が不足しており、その育成について検討する (緩和ケア医、認定看護師、認定薬剤師など)。すぐに増えることは難しいので、現状の把握、今後の計画を病院上層部とも共有する。</p> <p>③</p> <p>-1)院内の緩和ケアマニュアルの改訂を継続し、職員へ周知する</p> <p>-2)緩和ケアチーム、緩和ケア病棟、がん相談支援センターなど院内のリソースを紹介し、対応できる内容について継続的に周知をはかる</p> <p>-3)緩和ケアチーム依頼フォームの見直しをおこなう</p> <p>-4)リンクナースと緩和ケア病棟スタッフのELNEC-J受講率70%以上を目指すことで機能強化、連携強化につなげる</p>	<p>①</p> <p>-1)12/10開催に向けて準備中。なお、現時点の申し込み人数は20名 (医師13名、看護師4名、臨床心理士2名、作業療法士1名) である。</p> <p>-2)7月開催の予定であったが新型コロナウイルス感染拡大時期と重なり開催延期となった。10/29~30に規模を縮小して開催した。</p> <p>参加者：看護師19名 (院内10名、院外9名)</p> <p>-3)緩和ケア委員会、緩和ケア病棟合同での研修会を調整中である。</p> <p>-4)リンクナースはNICU、手術センターを除く全部署に1名配置されており、救命救急センター・集中治療センター以外は週1回の緩和ケアラウンドで対象者がいる場合はその都度カンファレンスを実施している。</p> <p>病棟単位での勉強会を依頼に応じて適宜実施している。</p> <p>病棟勉強会</p> <p>6/7「緩和ケア概論・緩和ケア病棟」11名</p> <p>7/14「疼痛の評価と治療 (主にオピオイド) 約10名</p> <p>10/13 「エンゼルケア/COVID-19患者を中心に」約10名</p> <p>11~12月「ACP」予定</p> <p>②</p> <p>-1)下記③参照</p> <p>-2)9月に現状の共有を行い、充足するよう対応を協議した。</p> <p>③</p> <p>-1)マニュアル院内のポータルサイトに掲載しており、適宜改訂している</p> <p>-2)緩和ケア委員会内において、緩和ケア病棟の特徴や対象者、入棟までの流れなど周知をはかった。がん相談支援センターについてもリーフレット改訂に併せて再度周知をはかった。</p> <p>-3)緩和ケアチーム依頼フォームの見直しを行い、7月より運用を開始した。</p> <p>-4)ELNEC-J受講率は日程変更の影響もありリンクナース60%、緩和ケア病棟58%にとどまった。</p>		

鳥取県立厚生病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>・ 医師向けの緩和ケア研修"PEACE"開催 →2022/12/10予定 (院内スタッフ限定とする)</p> <p>・ 看護師向けの研修"ELNEC-J"開催 →予定なし (参加希望者は鳥取県立中央病院、鳥取市立病院での研修へ参加するよう声掛け)</p> <p>・ 看護師に対するコース研修開催 →予定なし (ラダー研修を行う)</p>	<p>①</p> <p>・ 2022/12/10開催予定 <講師・ファシリテーター> 緩和医療担当医師3名、その他医師2名、看護師6名、MSW1名。 <参加者> 研修医6名、理学療法士1名、薬剤師1名、公認心理師1名、看護師3名</p> <p>・ 講師として当院緩和ケア認定看護師が、鳥取県立中央病院の研修に参加。受講生は当院から1名あった。</p> <p>・ ラダー研修内で、意思決定支援、看護倫理、臨死期の看護などを行っている。</p>	<p>①</p> <p>・ 現在、準備中。</p> <p>・ コロナの流行もあり、他院の集合研修への参加は控え気味。今後も県立中央病院への研修参加を呼びかけていく。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアに関連する委員会での研修・勉強会開催 →2022/06月予定：口腔ケア研修会 2022/08月予定：コミュニケーション研修会 2022/10月予定：ACP研修会 2022/12月予定：がん性疼痛看護認定看護師による研修会 2023/02月予定：緩和ケア認定看護師による研修会 ・病棟における勉強会開催→ニーズに合わせて適宜開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会内での事例検討会：2022/05/12 参加者：緩和医療担当医師2名、その他医師1名、看護師13名、MSW1名、管理栄養士1名、理学療法士1名、作業療法士1名、薬剤師1名 ・口腔ケア研修会：2022/6月→実施できず日時検討中 ・コミュニケーション研修会：11月に予定していましたが、コロナ感染拡大のため延期。（日付未定） ・ACP研修会11/24開催予定だったが、コロナ感染拡大のため延期（日付未定） ・がん性疼痛看護認定看護師による研修会：2022/12月Webで配信予定 ・病棟において勉強会を開催しているが、緩和ケアに関することは今年度は行っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの流行期は、集合での委員会や研修会を中止または延期しており、予定と日程がかなりずれ込んでいるが、実施できる方法を検討しながら実行している。
<p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員に向けて緩和ケアに関するマニュアルの周知 →ポケットマニュアルを携帯し緩和ケアチームラウンド時に活用 新入職者へは説明とともに渡す マニュアルの見直しを行う ・緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底 →医師からは緩和ケア外来へ紹介、看護師などからはチーム介入依頼シートの記載としている。院内報を出し、周知 ・緩和ケア専門家との連携方法の再考 →緩和ケア外来、緩和ケアチームへの依頼方法について再検討 ・リンクナースの機能強化と連携強化 →今年度は緩和ケア委員会の活動を4つのワーキンググループへ編成し、活動を強化。2022/05/12：委員会内で事例検討会 ・地域医療機関との連携強化 →月1回の緩和ケア委員会に藤井政雄記念病院緩和ケア内科医と緩和ケア病棟看護師長に来院いただき、情報共有 	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年12月初版発行の緩和ケアポケットマニュアルを医師・看護師、緩和ケア委員は全員携帯している。 ・委員会内で担当を振り分けマニュアルの見直しを行っている状況であり、改訂はまだできていない。初版発行時に参考にしたガイドラインなどは、以下。 ①がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン ②医療用麻薬適正使用ガイドダンス ③緩和ケア研修会参加者ハンドブック ④がん緩和ケアガイドブック ⑤食事に困った時のヒント・改訂版 ⑥各種医薬品インタビューホーム ・緩和ケアチーム介入依頼シートを記載する。 ・今年度は、2回院内報を出し、介入方法について周知している。 ・緩和ケア外来、緩和ケアチームへの介入依頼がある場合は、カルテ内の紹介または、介入シート依頼を入力した上で、がん相談支援センターのスタッフへ連絡をするようにした。 ・今年度は、ACPチーム、疼痛アセスメントシートチーム、緩和ケアスクリーニングチーム、生活のしやすきチーム、の4つのワーキンググループに分け、活動をしている。 ・2022/05/12の委員会内で、事例検討会を行った。 ・コロナの流行期は、委員会を中止したり、藤井政雄記念病院から来ていただくことができなかったが、書面で意見交換を行った。 	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチームラウンド時に病棟スタッフと一緒にポケットマニュアルを見ながらのカンファレンスはできていないが、まずは事前のチームでのカンファレンス時にマニュアルを見るよう心がけている。 ・院内報を出したことで、がん相談支援センターへの問い合わせが増えた。 ・早期に介入が必要な状況かどうかの判断がしやすくなっている。 ・各ワーキンググループでシートの改訂や研修会の計画もやっている。 ・緩和ケア病棟のある藤井政雄記念病院と連携を図るため、月1回の交流や意見交換を継続している。
<p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内施設合同カンファレンスの開催 →2022/07/14予定：藤井政雄記念病院と野島病院との合同症例検討会（事例提示：藤井政雄記念病院）…昨年度コロナで開催できなかった分 2023/01月予定：藤井政雄記念病院と野島病院との合同症例検討会（事例提示：当院） ・他施設の活動に理解を深め、自院の活動に生かす →当院は緩和ケア病棟がないため、中部唯一の緩和ケア病棟がある藤井政雄記念病院へ転院の際は、緩和ケアサマリを活用し、患者家族の思いや願いが伝わるようにする。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回の当院、野島病院、藤井政雄記念病院の3病院で緩和ケアに従事するスタッフによる合同症例検討会を開催。昨年、コロナの流行でできなかった分を07/14に予定していたが、今回もコロナの流行により、書面での開催へ変更した。事例提示は藤井政雄記念病院が担当した。 ・今年度分は、2023/01月に予定。 ・藤井政雄記念病院の緩和ケア病棟への転院の際は、看護サマリ以外にも「緩和ケアサマリ」を作成し、それをもとに転院までに緩和ケア委員会のメンバーとともに内容について検討し、終末期における継続した看護が提供できるように努力している。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが流行すると感染拡大防止のため、集合での研修ができない。昨年度はやむを得ず延期したが、昨年度分でもあり、今回は方法を検討し書面での開催とした。 ・昨年度、藤井政雄記念病院の看護師対象にアンケートを実施した結果、「活用できている」との返事をいただいたため継続していく。

米子医療センター

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育として、医師向けの緩和ケア研修 (PEACE) の開催、病棟における勉強会の開催をする。</p> <p>②緩和ケアに関するマニュアルの作成・更新を行い、周知する。</p> <p>③多施設が参加する研修会への参加、発表を行う。</p>	<p>①・PEACE研修 2022.10.1開催 (参加13名)</p> <p>・7階病棟勉強会 (2022/5/25 緩和ケア概論、2022/6/20 鎮静について、コミュニケーション)</p> <p>・8階病棟勉強会 (10/14 緩和ケア概論、鎮静について)</p> <p>②院内マニュアルはあるが、H26年以降改訂がなく、今年度中に改訂予定。緩和ケアチームへの依頼方法については現在改訂中。リンクナース なし。各病棟に緩和担当ナースはいるが、定期的なカンファレンス等はない。</p> <p>③当院は訪問看護もっており、短期退院の際の訪問や、他の訪問看護ステーションのサービス導入するまでの対応や、地域医療機関との連携を行っている。</p>		

鳥取市立病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①緩和ケアを専門としない医療従事者へ基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>1) 10/23 (日) 緩和ケア研修会</p> <p>2) 11/7 (月) 仮想症例を用いた倫理検討 対象者：鳥取市立病院看護師 目的：院内看護師の倫理観を養う</p> <p>②緩和ケアに対する課題を明確化し、課題解決を図る。</p> <p>1) 緩和ケアマニュアルの改訂</p> <p>③緩和ケアを専門としない医療従事者と緩和ケア専門家の連携を強化</p>	<p>①</p> <p>1) 10/23 (日) 実施済 参加人数：12名 (緩和医療担当医師0名、そのほかの医師12名、看護師6名、薬剤師0名、そのほか0名)</p> <p>2) 11/7 (月) "モヤッとした事例"について考えよう 参加者：鳥取市立病院 看護師5名</p> <p>②</p> <p>1) 今年度中に修正するが、まだ改訂はしていない。(緩和医療学会が出しているガイドラインに沿って作成している。) PCTへの依頼方法は定型化がされていない。リンクスタッフはいない。</p> <p>③</p> <p>東部医師会と連携を図っており、地域の医療介護職の方々とACP研修を行っている。</p>	<p>①</p> <p>1) 研修医の参加がほとんどになってきており、臨床経験が少ない状況での研修となっている。</p> <p>2) 少人数での事例検討会。倫理的課題、多様な価値観、今後の自分たちの関わりについて検討することができ、来年度も開催予定。</p>	

鳥取赤十字病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①オピオイド回診 (週1回) による苦痛のコントロール状況の把握とスタッフ・患者支援</p> <p>②毎月1回、担当を決め、事例検討とそれぞれの部署の特徴を活かした学習会の開催</p> <p>③がん看護研修会 (がん化学療法、乳がん看護、緩和ケアCN担当)</p>			

鳥取生協病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>1) 医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>①研修会の開催</p> <p>■鳥取生協病院緩和ケア研修会</p> <p>2023年2月「栄養サポートについて(仮)」講師:管理栄養士</p> <p>2023年3月「オピオイド使用について(仮)」講師:薬剤師</p> <p>■対人援助・スピリチュアルケア研修</p> <p>日程調整中 講師:村田 久行先生</p> <p>■新卒看護師研修</p> <p>2022年6月15日 緩和ケア総論</p> <p>2022年7月6日 看護倫理</p> <p>講師:緩和ケアCN</p> <p>■教育委員会学習会</p> <p>2022年11月8日 臨床倫理 講師:緩和ケアCN</p> <p>■病棟学習会</p> <p>各病棟のリンクナースを中心に企画を検討</p> <p>2) 医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>①緩和ケアチームラウンド・カンファレンスの継続</p> <p>②病棟・外来・訪問診療所との連携強化</p> <p>患者情報の共有、合同カンファレンスを実施し切れ目のない緩和ケアの実践</p> <p>3) 各施設の課題の明確化と問題解決</p> <p>①緩和ケア委員会で各部署のメンバーからの現状聞き取りやアンケートを実施し、問題を明確化する→その後、課題に取り組む</p>	<p>1)</p> <p>①研修会の開催</p> <p>■鳥取生協病院緩和ケア研修会 企画中。</p> <p>12月～1月、院内外へ研修会の案内を行う予定。</p> <p>■対人援助・スピリチュアルケア研修</p> <p>受講者8名(Ns3名、PT2名、OT1名、ST1名、歯科衛生士1名)、他職種が参加している。援助的コミュニケーション(傾聴)とスピリチュアルケアの理論を演習・ディスカッションで学びを深めている。</p> <p>■新卒看護師研修 新卒看護師16名参加。</p> <p>「緩和ケア総論」では、緩和ケアの概論やコミュニケーション、意思決定支援、価値観について学びを深めた。</p> <p>「看護倫理」では、倫理綱領を振り返ると共に、看護師が直面する倫理的問題について4分割表を用いて分析し、具体的なケアを考えた。</p> <p>■教育委員会学習会</p> <p>今後、実施予定。</p> <p>■病棟学習会</p> <p>緩和ケア病棟 「オピオイド管理」看護師7名、「グリーンケア」看護師8名で実施した。</p> <p>2)</p> <p>①チームラウンドとカンファレンスを毎週木曜日に実施しており、相談依頼について検討を行っている。</p> <p>②同法人内ではあるが、すえひろ生協診療所から訪問診療を行い、入院・外来・在宅で切れ目のない緩和ケアの実施。入院から在宅移行の際には、多職種で合同カンファレンスを行っている。</p> <p>3)</p> <p>①上半期、メンバーからの聞き取りやアンケートの実施はできていない。</p> <p>症状緩和についてなど独自で緩和ケアマニュアルを作成し、電子カルテにも入れ、いつでも閲覧できるようにしている。</p> <p>(日本緩和医療学会ガイドライン)</p>	<p>2)</p> <p>①リンクナースの出席率は低い。チーム依頼方法は定型化されている。</p>	

野島病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療従事者へ基本的緩和ケアに関する教育を行う 緩和ケアに関連する緩和ケア委員会(院内)での勉強会 緩和ケア委員会での研修の充実を図る <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアチームと他職種間で連携を取りやすい関係性を築く 院内での情報の共有を行う 地域医療機関との連携強化 <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p>			

山陰労災病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>① 癌治療に関する情報提供とともに緩和ケアに関する知識の普及をはかる。具体的には、テーマを決めて講義の形態にしたものを院内のイントラネット上に配信し、全職員が閲覧、受講できるようにしていく。</p> <p>②院内緩和ケアマニュアルの整備を行う</p> <p>③緩和ケア回診を行って病棟担当者と情報を共有していく。</p>	<p>①院内研修会(Web)</p> <p>1.テーマ：がん患者の自宅療養に向けた関わり。ねらい：入院から在宅移行時に適切なタイミングで介入が出来る。在宅療養に向けての必要な支援を理解する。 開催日時：令和4年6月13日～令和4年7月3日。 講師：在宅看護専門看護師。</p> <p>2.テーマ：がん患者におけるせん妄について。ねらい：がん患者の出現しやすい症状を知り、適切な薬剤の使用方法や介入方法が理解できる。開催日時：令和4年7月11日～令和4年7月31日。 講師：外来がん治療認定薬剤師</p> <p>3.テーマ：免疫チェックポイント阻害薬について。ねらい：がん患者が出現しやすい症状を知り、適切な薬剤の使用方法や介入方法が理解できる。 開催日時：令和4年9月5日～令和4年9月25日。 講師：外来がん治療認定薬剤師</p> <p>②緩和ケアに関する独自のマニュアルはある。緩和ケアチームへの依頼方法は定型化されたものはあるが、あまり活用されていない。その代わり毎週オビオイドを使用している患者には病棟でカルテ回診を行い、問題点についてカンファレンスを行っている。</p> <p>③緩和ケアに関するリンクナースはいないが、担当看護師はいる。</p>	<p>①<1.研修内容について></p> <p>・必須研修ではないが180名以上のスタッフにみていただくことができた。特に医師や看護師の視聴が多く、自宅療養についてはスタッフの興味のあるテーマの一つであったと言える。研修内容についても新しい知識を得ることが出来た、発見や気づきがあったと約9割のスタッフから回答を得ることができ有効な研修であったと考える。自由記載でも多くのスタッフから参考になった、今後にかしていききたいなどの意見があった。また、事例を挙げても良かった、独居患者のターミナル期の支援について知りたいなど要望もあり、今後の研修に取り入れていきたいと考える。</p> <p><2.研修内容について></p> <p>・必須研修ではないが140名程度の看護師、医師、コメディカルなどに視聴していただくことが出来た。9割以上のスタッフが新しい知識を得ることができた、理解できたと答えており、研修のねらいは達成できたと考える。自由記載のコメントからみても、実際に現場ではせん妄患者の対応に困ることが多く、今回の研修内容を実践で活かしていきたいという声が多く書かれていた。臨床現場の現状に合わせた研修が行えたと言える。Web研修のため、自分のタイミングで視聴ができ、資料をコピーして現場で見直せたいとの意見があった事よりWeb研修は有効であったと考える。</p> <p><3.研修内容について></p> <p>・今回化学療法を扱うスタッフの視聴が多かった。視聴したスタッフからは、よくわかった、今後にかしていききたいなどの声が多くあった。なかには印刷してファイルしておくという意見もあり、研修内容を今後化学療法時に活かしていただけると考える。緩和を含まない研修であったため、視聴件数は前回より減少はした。しかし、化学療法に携わるスタッフからの視聴はありWeb研修は有効であったと考える。</p> <p>②院内の緩和ケアマニュアルは定期的な見直しが必要と考えられる。</p>	

博愛病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>1.院内研修会・勉強会の企画開催 (Web、動画配信)</p> <p>2.病棟スタッフ会などでの出前勉強会の開催</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>1.緩和ケア処方設計支援Excelシステムの周知</p> <p>2.症状マネジメントの為のカルテ評価ツールの構築</p>	<p>①</p> <p>1.まだ実施していない。1月に院内研修会を開催する。(対象は院内全スタッフ、並びに近隣薬局の薬剤師を対象)</p> <p>2.新型コロナウイルス感染症対策にて病棟閉鎖等で実施できず。</p> <p>②</p> <p>1.処方設計に関与する薬剤師へ利用促進の呼び掛けを実施し、利用していただくことにより、不具合なども発見でき、システム改修(8月に改定)を実施。システム改修に併せて院内緩和ケアマニュアルの改定 (9月)</p> <p>2.電子カルテの評価テンプレートを作成 STAS-Jなどを元に疼痛アセスメントテンプレート せん妄スクリーニング(DST)のテンプレートを作成</p>	<p>①</p> <p>2.病棟スタッフ会などでの出前勉強会の開催 下期に状況を勘案して検討</p> <p>②</p> <p>1.周知が不十分で利用は主に薬剤師にとどまっている。より多くのスタッフへ利用してもらえるアナウンスが必要。 作成途中の緩和ケアマニュアルの改定ができなかった。</p> <p>2.現在アナウンスが不十分で今後利用促進が必要。</p>	

3.緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底	3.実施できていない。		
4.リンクナースの活動強化 (リンクナース向けの勉強会)	4.チーム会でリンクナース向け勉強会を2回にわけて開催した。 内容：がん患者の呼吸器症状、非がん患者の呼吸器症状緩和の勉強会 専門職以外の参加者：看護師6名、PT 1名、OT 1名、公認心理師 1名、薬剤師 1名	4.新型コロナウイルス感染症対策の状況を勘案しながらのため開催が少なかった。	
5.地域医療機関との連携強化 (LINE Worksシステムを利用した連携) (米子緩和ケア研究会等への参加)	5.*LINE Worksの連携、米子緩和ケア研究会等への参加 新型コロナウイルス感染症等の影響、院内の状況として参加できなかった。	5.*LINE worksの連携 前期は、薬局薬剤師2件と連携数が少なかった。 *米子緩和ケア研究会等への参加案内などの回覧を行う。	